

(公表用)

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」(平成29年度採択)

事後評価結果

番号	研究名	研究代表者	評価
29-5	交通事故リスクマネジメント手法の研究開発	愛媛大学 教授 吉井 稔雄	B

<研究の概要> ※成果報告レポートより引用

効果的なソフト対策実施による交通安全性の向上を実現するため、交通事故の起こりやすさ(以下では、“交通事故リスク”)に関する情報を活用した交通マネジメント手法の構築を研究目的として、交通事故リスク値を評価・算定する手法の構築、同交通事故リスク情報の提供など、交通事故リスクマネジメント実施効果の定量的評価、ならびに交通事故リスクの認知バイアスを把握し、そのバイアスを補正するためのコミュニケーション手法の構築を実施する研究開発。

<事後評価結果>

- ・FS 研究段階からの成果を含め、交通事故リスクマネジメントに関する包括的な研究開発成果がまとめられたものと評価される。
- ・実際に阪神高速道路で成果が運用されていることは高く評価できる。研究成果の公表も十分なされている。
- ・交通事故のリスクを客観化し、それを利用者に伝えるという研究意図は素晴らしく、部分的にせよ社会実装した点が評価できる。一方で、生活道路については、事故の本質に迫りきれたとは言えないのではないか。
- ・研究成果を現実の政策に生かすため、継続的な情報発信が求められる。
- ・バイアスを補正するためのコミュニケーション手法を構築する目的に対し、アンケートという記載に留まっており、その手法が示されていない。
- ・本研究の成果として、交通事故リスクマネジメント手法そのものが完成したというよりも、手法検討のためのいくつかの有用な情報が得られたものと考えられる。
- ・道路ユーザーへのリスクコミュニケーションを洗練化する必要がある。
- ・このことから、研究目的は概ね達成され、研究成果があったと評価する。

<参考意見>

1. 本研究で言う交通事故リスクの「知覚」は単なる「知識」ではないか。一般に「知覚」は、外部の刺激に対する反応であり、道路情報板の情報は、何度も見ているうちに効果が薄れる可能性が想定される。
2. 交通工学研究会の自主研究と連携して取り組んだとのことであるが、それぞれの成果の仕分けがどうなっているのかがやや不明確となっており、整理が必要である。

※本事後評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第43回新道路技術会議において審議したものである。